

策定年月	令和5年7月
見直し年月	

大豆国産化プラン

産地名：嘉島町

（作成主体：嘉島町地域農業再生協議会）

1. 大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○現状

【大豆】

- 栽培品種である「フクユタカ」は実需からの評価は高く、安定生産及び供給拡大が求められている。
- 収量・品質は年次変動が大きく、収量・品質の低下要因として、地力の低下、排水不良、播種時期の降雨による発芽率の低下、開化期以降の干ばつによる落花や落莢、収穫遅れによる裂莢が挙げられる。
- 近年では、特に地力低下等に伴う収量減少が顕著にみられている。
- 担い手への農地の集積が急速に進んでおり、1経営体当たりの作付面積が拡大しているため、農業機械の導入により適期作業・栽培管理等作業の効率化を図る必要がある。

○課題

【大豆】

- 実需のニーズに合わせた生産拡大。
- 農業機械の導入等による作業の効率化・適期作業・栽培管理の徹底により、収量・品質の向上。
- 地力増進に向けた土づくりの推進。

○課題解決に向けた取組み方針

【大豆】

- 水田農業の基幹作物として実需のニーズの継続的な把握に努めるとともに、収量・品質の向上に向けた栽培技術（排水対策、適期作業、土づくり等）の徹底と農業機械の導入により作業効率の向上を推進することで、大豆の安定生産・及び供給拡大を図る。
- 作業効率の向上の推進を図ることで、生産者の生産意欲向上を働きかけることができ、更なる生産拡大を推進する。

※ 表・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

産地と実需者の取扱量

品種	現状		目標（R 7 年）	
	生産量	契約数量	生産量	契約数量
フクユタカ	459.5t	858t	533t	858t

1. 実需者から求められている契約数量に対して応えるため、前途の取組方針により生産に取り組む。
2. 目標値は当面の目標とし、実需の要望に応じてミスマッチの生じない生産を実施する。
3. 新品種については実需者と協議の上、十分な栽培試験、品質評価を行い、既存の営農体系に合致した品種の導入を検討する。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

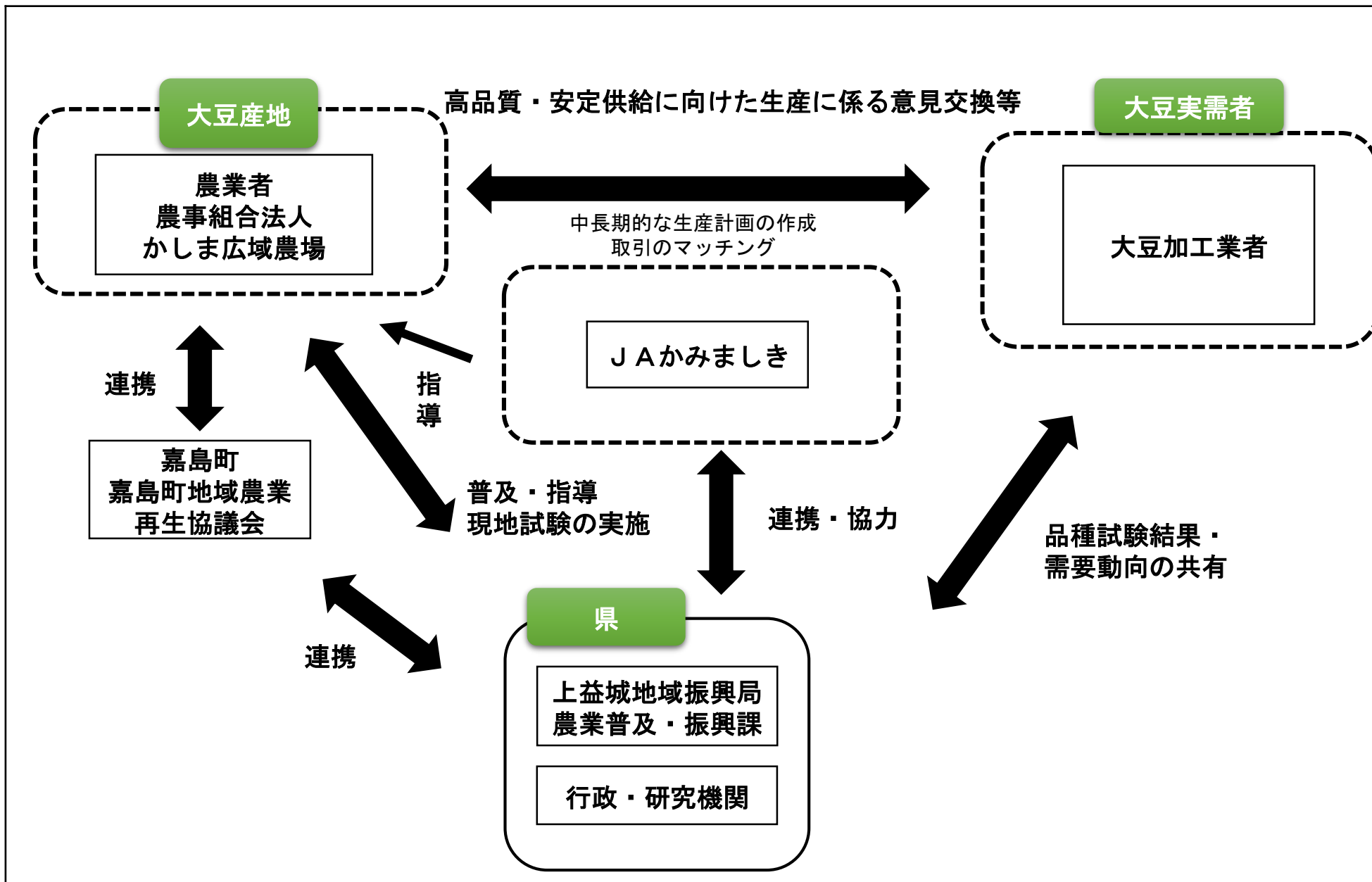
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。